

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 民生博愛会

第二大野保育園

1. はじめに

- 平成30年度は園児60名でスタートし1番多く入所していた時で72名（定員×120%）であった。30年度は年度当初は0歳児の入所がなかったものの、その後園児数も増えた。職員の人数確保は十分だったため、更に保育を見直し望ましい態勢をとることが出来た。
- 平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震による塀の倒壊被害を受け当園のブロック塀を確認したところ平成12年に施行された建築基準法に適合していない箇所があり、昭和53年に開園した当初のブロック塀だったことから基準に沿ったブロック塀の工事を行った。
- 保育園でも携帯電話を持つことになり平成30年9月の地震による停電時（復旧まで2日間）では保護者との連絡をとるときにとっても便利であった。またこの災害ではいろいろなことが問題視され、再度態勢を見直す事で改善することが出来た。
- 将来認定こども園になることを見据えて、幼稚園教諭の免許更新も順調に進むことが出来た。
- 保護者に保育園での様子をわかってもらえる工夫を行う事で理解を深めることが出来たように思う。また、行事を見直し、子どもにとってより良い方法をその都度職員間で構築して行くことが出来た。

* 毎月初日の園児数 *

	北斗市	七飯町	合 計
4月	60		60名
5月	60		60名
6月	60	1	61名
7月	62	1	63名
8月	64	1	65名
9月	65	1	66名
10月	67	1	68名
11月	66	1	67名
12月	67	1	68名
1月	68	1	69名
2月	71	1	72名
3月	69	1	70名

- 30年度の広域入所は、七飯町1名（6月から）であった。

2. 保育活動

①保育目標について

心身共に健康で健やかに成長し、子どもの全面発達を保障し、安心してゆったりとした気持ちで快適に生活できるよう環境作りを大切にしながら、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うこと。保護者の意向を受け止め子どもと保護者の関係に配慮し、保育園の特性や保育士等の専門性を生かして援助にあたり、下記のことを目標として保育を行った。

- ・元気に遊ぶ子（健康に関心を持ち、進んで体力作りをする）
- ・友達を大切にし、思いやりのある子（共感する気持ち、優しさを育てる）
- ・自分の気持ちを話せる子（言葉や礼儀への関心、豊かな情操・思考力・表現力を育てる）
- ・最後まで諦めず頑張る子（積極性・根気強さ・集中力を育てる）
- ・協調性のある子（自主性・協調性・社会性や社会生活の基礎を育てる）

②保育内容について

保育所保育指針に基づき、あわせて本園の保育目標を考慮し保育を進めた。又、一人ひとりの発達過程に応じて個人差に配慮した。自然や地域との関わりや、乳児や障がい児との関わり大切にしながら心の育ちを助長してきた。子どもの個性を大切にしながら基本的な生活習慣の確立を図った。

- ・ 戸外活動を活発に行い、砂遊び・水遊び・雪遊びを積極的に行った。
- ・ 裸足・薄着の習慣を付け、健康と体力作りに繋げた。
- ・ 縦割り保育の導入をして異年齢児との交流を図った。
- ・ 保護者参加の行事を行うことにより保護者との交流を深め、保護者に保育園での子ども達の様子を見てもらった。
- ・ 避難訓練・交通安全指導・食育指導・保健指導を実施し、万が一の時の避難行動を習得したり、自分の体の健康に関心を持てるようにした。

③保育計画について

0歳児～5歳児までの基本的な指導計画の中で、保育課程・食育計画・保健計画をもとにして年案・月案・3歳未満児の個別月案・週日案と適切に立てられ保育を進めることができた。

- ・ 子どもの発達状況や日々の状態によっては指導計画にとらわれず、柔軟に保育を進めた。
- ・ 障がい児に対しては個別の指導計画を立案し保育を進め、保育士の連携体制により個別での関わりも十分に行えた。
- ・ 各書類に関しては常に保育を見直し、定期的に自己評価を行い、その結果に基づきより良いものを作り上げる努力をした。

④保育環境について

子ども達が楽しく安心して快適に過ごし、様々な活動が豊かなものとなり、又安全に生活することを目標に下記のように環境を整えて保育を進めた。

- ・ 一人ひとりの子どもが保護者と離れて長時間過ごしていても不安を感じる事がなく、安心して過ごせるよう家庭的な雰囲気作りを心がけ、保育士が何時でも応じることができるよう身近にいた。
- ・ 室内外の清潔に心がけ、保育室・トイレ・手洗い場等は特に清潔を保ち、毎日の清掃・消毒を徹底して行った。
- ・ 園児が使用する寝具・マット・食器・玩具・遊具等の点検と消毒を怠らず、清潔を保つように心がけた。(月に1回の点検と毎日の点検)
- ・ 各保育室の採光・温度・湿度・冷暖房の使用に注意し、十分な換気を行った。又、ホール
各保育室に空気清浄機を設置し、ウイルスの除去を図った。
- ・ 園舎内外の点検・管理を重視し、古い物から交換や修理をして安全を心がけた。
(施設等自主点検表・火気関係自主点検表を利用)

⑤保育開始日および保育終了日について

- ・ 保育開始日 平成30年4月 1日
- ・ 保育終了日 平成31年3月31日

⑥開園時間・休園日について

- ・ 開園時間
月曜日～土曜日 午前7時00分～午後7時00分
* 保育標準時間認定…午後6時～午後7時までが延長保育。
* 保育短時間認定 … 午前7時～午前8時までと午後4時～午後7時までが延長保育。
- ・ 休園日
日曜日および祝日・国民の休日

3. 特別保育事業について

①障がい児保育

出来るだけ適切な環境の中で保育ができるよう、通常は健常児の中での保育を進めたが、難しい時は個別での保育を進めた。また、嘱託医や北斗市子ども・子育て支援課や専門機関（つくしんぼ学級・療育センター・保健師）との連携を密にするとともに、必要に応じては専門機関からの助言を受ける。又、色々な研修会や勉強会にも参加した。30年度は自閉症と肢体不自由児の2名を受け入れた。

* 30年度障がい児入所状況 *

自閉症スペクトラム	(軽度)	5歳児	1名	4月～3月
肢体不自由児	(重度)	3歳児	1名	4月～3月

②世代間交流

お年寄りとの触れ合いを通して感謝の心や思いやりの心を育てることができたと思う。交流会の回を重ねるごとにお年寄りも子ども達も笑顔が増えていった。今年度は年長児の祖父母参加が少なかったので来年度は行事の周知を早めにし、たくさんの参加を望みたい。又、感染症流行の為に中止となる行事も多かった。昨年感染症流行の為に中止となったせせらぎ交流会は今年度は実行でき、たくさんの方に楽しんでもらえた。大野農業高校の就業体験があり2名の生徒が保育園での生活を体験した。

* 世代間交流実施状況 *

	交流実施日	交流内容	場所	お年寄り参加人数	園児参加人数
1	5月9日	清華園デイサービス訪問『誕生会』 (歌・お遊戯・触れ合い遊び・ プレゼントを渡す)	清華園 デイ	25名	18名
2	6月19日	敬楽荘訪問(歌・お遊戯・触れ合い遊び)	敬楽荘	35名	18名
3	6月29日	七夕交流会(笹飾り作り・歌・他・会食)	保育園	5名	16名
4	9月19日	きずな・ゆとり寮訪問(歌・お遊戯・ 触れ合い遊び・ゲーム)	きずな 寮	20名	10名
5	10月10日	祖父母とバス遠足(宮後果樹園に行き りんご狩りを行いお弁当を食べる)	宮後 果樹園	2名	8名
6	10月18日	清華園デイセンター訪問(歌・お遊戯・ 触れ合い遊び・ゲーム)	清華園	感染症流行のため中止	
7	10月31日	清華園交流会 (歌・お遊戯・触れ合い遊び)	清華園	体調不良児が多く中止	
8	11月15日	敬楽荘デイサービス訪問(歌・お遊戯・ 触れ合い遊び・ゲーム)	敬楽荘	体調不良児が多く中止	
9	1月26日	せせらぎ交流会(各クラス発表・会食)	保育園	20名	52名
10	3月3日	お楽しみ会(年長児祖父母との交流会・ ゲーム・触れ合い遊び・会食)	保育園	22名	19名
11	3月13日	清華園『誕生会』(歌・お遊戯・触れ合い 遊び・プレゼントを渡す)	清華園	感染症流行のため中止	

* 地域における異年齢児交流実施状況としては、8月4日の小学生交流会に15名が参加した。
(昨年度の卒園児)

6月13日には大野農業高校よりインターンシップで2名受け入れた。
又、8月24日には大野中学校1年生の職場体験で5名を受け入れた。

③延長保育

保護者の就労形態から求められる必要性の高い事業なので積極的に行った。30年度も、計画より利用人数が多かった。午前7時より午後7時までの開園時間とし、月曜日～土曜日まで行った。

* 保育標準時間認定…午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料（おやつ代含）

* 保育短時間認定 …午前7時～午前8時 無料

午後4時～午後5時 1回150円の延長保育料

午後5時～午後6時 1回150円の延長保育料

午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料（おやつ代含）

を徴収した。職員体制は、午後5時00分までは6人で、午後5時30分までは4人で、午後6時00分までは3人で、それ以降は2人で保育にあたった。2人で保育する場合は、2人の役割分担を明確化し慎重に保育を進めた。但し、0～1歳児や園児の人数が多い場合はその時の人数に合わせて担当保育士を増員し、保育を進めた。

* 月別延長保育利用状況 *

	開設日数	延長保育日数	利用人数 標準時間	利用人数 短時間		開設日数	延長保育日数	利用人数 標準時間	利用人数 短時間
4月	24	21	75	1	10月	26	25	95	3
5月	24	24	105	11	11月	24	23	87	2
6月	26	24	82		12月	24	24	101	13
7月	25	23	115	3	1月	23	22	90	30
8月	26	25	98		2月	23	19	94	4
9月	23	20	76	5	3月	25	24	109	6
					合計	293	274	1,127	78

④一時預かり保育

保護者のパート就労や疾病・入院及び私的な理由等により一時的に保育が必要と認められる乳幼児を対象に行う。保育時間を基本的に午前8時00分から午後4時00分とし、月曜日～土曜日まで行った。通常保育園児と同年齢のクラスに入り保育を受け利用料としては1日1,800円（昼食・おやつ300円、保育料1,500円）とした。

30年度は利用人数も多かった

* 月別一時預かり保育利用状況 *

	開設日数	一時預かり保育日数	利用人数		開設日数	一時預かり保育日数	利用人数
4月	24			10月	26	9	9
5月	24	1	1	11月	24	8	8
6月	26			12月	24	2	2
7月	25	10	12	1月	23	9	9
8月	26	2	2	2月	23	12	12
9月	23	4	7	3月	25	20	26
				合計	293	77	88

4. 給食について

- ・薄味を心がけ、おいしく、食欲をそそる盛りつけで提供した。
- ・アレルギー除去食・離乳食ともに出来る範囲で調理し提供した。
- ・「友達と一緒に楽しく食べる」ことの中で、自然に偏食がなくなったり、望ましい食事の姿勢が養われるなどの集団ならではの長所もあり、又仲間意識や社会性を育て、良い集団作りをするための重要な役割になった。
- ・調理室は衛生的・安全面ともに十分な配慮の中で提供できた。
- ・栄養士との連携を密にとり、食材・産地の安全面に十分注意し、子どもにとってより安全な給食を提供できた。
- ・アレルギー食の子には、はっきりとわかる別の食器に名前を付けて複数の調理員で確認をして盛り付けをし、複数の保育士で毎朝確認をして配膳し、間違いのないように提供した。
- ・春、夏、秋、冬に行う園全体での食育指導にも繋げていった。

5. 職員研修について

- ・園長・主任保育士・保育士（正職）・調理員は1回以上の研修会に参加し、研修会報告書を作成し職員会議において発表し論議しあう。30年度は園外での研修会に12回参加できた。又、園内研修も12回行った。

平成30年度 職員研修実施状況

- ・運動会実技講習会
- ・食品衛生セミナー はじめよう！HACCP
- ・幼児教育を語る会
- ・保育士専門研修
- ・渡島保育協議会管理職向け研修会
- ・感染予防対策研修会
- ・渡島保育協議会特別支援教育部会研修会
- ・きりのめサロン
- ・発達支援コーディネーター養成研修会
- ・幼児教育を語る会
- ・保育施設長セミナー
- ・渡島保健所管内特定給食施設等従事者等研修会

6. 安全点検について

- ・園内外の点検を日頃から徹底して行い、古い物や危険な物から交換・修理を行った。
- ・玩具・遊具は、使用できない物や破損した物から取り替えを行い、安全な玩具を提供した。
- ・玩具は毎週土曜日又は、必要に応じて随時消毒を行い、清潔を保つ努力をした。
- ・職員会議などで、起こりうる危険・事故防止の為には何をどうすればよいかを話し合い、又、ヒヤリハットの報告をし、その内容を周知し対策を職員で協議した。
- ・遊具の特性や機能を全保育士が把握し、十分な配慮の中で遊べるよう努力した。特に砂場の管理は重視し、清潔な状態を保つ努力をした。
- ・事故防止対策として午前9時30分～午後2時30分と午後6時00分～午後7時00分まで玄関を施錠した。コール音で職員が確認後、玄関を開けるようにした。又、各クラスにはアラームキッズを備え、散歩時も携帯した。
- ・各保育室とトイレ前の手指消毒器を使用し、衛生面や消毒への意識をより高め習慣化を行った。又感染症が流行した時期は徹底した消毒を行い感染拡大を防ぐ努力をした。
- ・各種マニュアルを作成し、万が一の時に慌てることなく適切に対応できるように心がけた。

7. 職員の状況について

平成30年度 3月の状況

職 種	人 数	備 考
園 長	1名	正職 1名
主任保育士	1名	正職 1名
保 育 士	16名	正職 7名 常勤臨時 0名 パート 9名
調 理 員	3名	正職 1名 パート 2名
用 務 員	1名	給食兼務 常勤臨時 1名
事 務 員	1名	正職 1名
合 計	23名	

8. 施設整備及び備品購入について

(建 物)
ブロック塀工事

(備 品)
・なし

(構 築 物)
・なし

9. 年間行事について

行事に関してその都度、例年と同じ事を行うのではなくその都度話し合いを深め、子どもにとって良い行事になるように行った。またその行事の持つ意味をわかりやすく伝え、興味を持って参加できるよう工夫も心がけた。

保護者参加の行事については働く保護者の負担にならないよう事前に知らせ、また行事の見直しをすることで保護者、子どもがどちらも楽しく、又保育園の様子を少しでも多くわかってもらえる機会を多くした。

毎月行われる避難訓練では実際に起きた場合を想定した訓練を行う事で活かしたものになるよう心がけた。また、指導方法も子どもが興味を持つ事を前提に行った。

平成30年度は職員間で行事一つ一つを見直しすることで、子どもが最優先という意味付けを持って進めることが出来た。